

# Strauss Capelle Wien & Alma Deutscher

Johann Strauss II 200th Anniversary Special Concert

## program

- J.シュトラウス2世: ポルカ「浮気心」
- J.シュトラウス2世: 喜歌劇「こもり」より  
序曲  
アリア「候爵様、あなたのような方は」(梅津 晴)
- A.ドイチャー: ヴァイオリン協奏曲ト長調 (抜粋)
- G.ロッシーニ: 歌劇「パピローニアのキュロス、またはベルジャザル王の凋落」より  
アリア「Chi disprezza gl'infelici」
- J.シュトラウス2世: ワルツ「春の声」
- J.シュトラウス2世: ポルカ「雷鳴と雑奏」
- W.A.モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」より 序曲
- W.A.モーツァルト: 歌劇「魔術」より  
夜の女王のアリア「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」(梅津 晴)
- A.ドイチャー: ピアノとオーケストラのための日本の歌の幻想曲 (世界初演)
- J.シュトラウス2世: クラブフェンの森で「カッコウポルカ」  
F.レハール: 喜歌劇「メリー・ウイドウ」より  
「マキシムへ行こう」(明珍宏和)  
「ザリアの歌」(梅津 晴)
- A.ドイチャー: サイレンのワルツ
- J.シュトラウス2世: ワルツ「美しく背きドナウ」  
—アンコール—
- J.シュトラウス1世: ラデツキー行進曲  
F.レハール: 喜歌劇「メリー・ウイドウ」より  
「唇は静らずとも」(梅津 晴・明珍宏和)
- A.ドイチャー: 即興コーナー

## ウィーン・シュトラウス・カペレ 日本ツアー2025年

2025年 6月28日(日) 山形シルガ

2025年 7月2日(木) 徳島中央とみらいホール

2025年 7月6日(日) 愛知県芸術劇場 コンサートホール

2025年 7月1日(木) 徳島中央とみらいホール

2025年 7月5日(土) アトリオン音楽ホール

2025年 7月7日(日) サントリーホール

STRAUSS CAPELLE WIEN & ALMA DEUTSCHER

# ウィーン・シュトラウス・カペレ & アルマ・ドイチャー (管弦楽団)

ヨハン・シュトラウス2世 生誕200周年  
スペシャルコンサート



アルマ・ドイチャー (指揮)  
Alma Deutscher (conductor)



梅津 晴 (ヴァイオリン奏者)  
Yuzuru Miyazaki (violinist)



明珍宏和 (ピアノ)  
Akira Akashi (pianist)

シュトラウス2世: 雷鳴と雑奏  
レハール: 喜歌劇「メリー・ウイドウ」より ザリアの歌  
モーツァルト: 歌劇「魔術」より 復讐の炎は地獄のように我が心に燃え 抜

2025年7/6(日) 14:00開演(13:16開場)

愛知県芸術劇場 コンサートホール  
名古屋市中区東横1-13-2



チケット発売日: 2025年1月24日(金) 10:00 ~

全席指定・税込 S ¥8,000 / A ¥6,000 / B ¥4,000

お問い合わせ: クラシック名古屋 052-678-5310

### 【プレイガイド】

- ▶アイチケット 0570-00-5310 <https://elanago.com/l-ticket>
- ▶チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
- ▶ローソンチケット <https://l-tike.com/>

- ▶イープラス <https://eplus.jp/>
- ▶全文プレイガイド 052-972-0430
- ▶名鉄ホールチケットセンター 052-661-7755
- ▶栄プレテック32 052-863-0777

演出費及び自由座席となる座席が限られます。ご了承ください。 楽団員等の入場はご遠慮ください。 本楽団ツアーの案内は6ヶ月前に2度入場券に添付されたチラシが名古屋まで届きます。ご了承ください。

主催: クラシック名古屋 / テレビ愛知 / コンサートイマジン

## アルマ・ドイチャー（指揮者） Alma Deutscher (conductor)

### マルチな才能の天才少女が20才の才媛に!!

アルマ・ドイチャーは2005年生まれの作曲家、ヴァイオリニスト・ピアニスト・指揮者である。2歳でピアノを、3歳でヴァイオリンを始め、6歳ではじめてのピアノソナタ、9歳でヴァイオリン協奏曲を作曲した。指揮者のズービン・メータは、彼女を「今日最も偉大な音楽的才能を持ったひと」と評した。サー・サイモン・ラトルはBBCにこう語っている。「アルマは天才だ。あの年齢でこれほど幅広い分野に驚嘆すべき才能を示す人物を他に知らない。こんな才能に出会ったのは本当にはじめてだ」と。作曲家のイェルク・ヴィットマンも、彼女のような才能あふれる人物にはまだ出会ったことがないと言った。また、ヴァイオリニストのアンソニー・ムームターは、「この年若い少女が成し遂げたことは、まったくもって桁外れだ」と述べた。

アルマは2019年、ヨーロッパ文化賞を受賞しウィーン国立歌劇場での授賞式に出席。同年ドイツ誌「シュテレン」が選出する12人の「明日の英雄」の1人に選ばれた。さらに同年12月、アルマはニューヨークのカーネギーホールに全席売上でデビューを果たし、長々と繰り返されるスタンディングオベーションに迎えられた。彼女が作曲したオペラ「サンデラ」は3大座で上演され、いずれも売立となったが、「仮にそれが人生で一度きりのオペラ鑑賞であっても、観客を魅了しにさせ、喝采を叫ばせ続けるような作品」であると評された。初のピアノ・ソロアルバム「From My Book of Melodies」はソニー・クラシカルから音源が

リリースされ、楽譜がG.シャーマーから出版された。また、若いピアニストのためのアルバム「Alma's Piano Songs」も出版している。

自作曲のソリストとして、ルツェルン音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、北京音楽祭などの権威ある音楽祭に出演し、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、インディアンポリス交響楽団、深淵交響楽団などのオーケストラと共演している。

アルマは、ニューヨーク・タイムズ紙、ヨーロッパの主要紙はもとよりチャイナ・デイリー紙まで、世界中の著名な新聞で大きな特集やインタビューが組まれるなど、国際的な報道機関にも大々的に取り上げられている。また、世界中で数多くのテレビ番組にも出演し、2017年には二つの1時間番組「BBCドキュメンタリー」および「CBS 60ミニッツ」の取材対象となった。

現在アルマ・ドイチャーが弾くヴァイオリンは、アントニオ・ストラディヴァリ1683年製作ヴァイオリン（ブヒャー・ストラディヴァリウス、重大なバトロンの好意により貸与）と、ベーター・グライナーの2015年製である。



<https://www.almadeutscher.com/>



## ウィーン・シュトラウス・カペレ Strauss Capelle Wien

ウィーン・シュトラウス・カペレ（管弦楽団）、（登録名：シュトラウス・カペレ・ウィーン）の歴史は200年ほど前まで遡ります。設立者はヨハン・シュトラウスI世（1804年～1849年）で、このオーストリアの伝統的でエレガントな紅白の衣装は当時のオーストリア皇帝、フランツ・ヨーゼフI世が選んだもので、今日まで受け継がれています。

彼らの人気がいかに凄かったかの証拠であり、ウィーンワルツの流行はウィーンのみならずヨーロッパ中に拡大しつつあったのです。「ワルツの父」と呼ばれたシュトラウスI世が45歳の若さで亡くなる前から合頭してきていたのが息子のヨハン・シュトラウスII世（1825年～1899年）です。「ワルツ王」と言われ、たくさんのワルツやポルカ、オペレッタを残しました。次弟のヨーゼフ・シュトラウス（1827年～1870年）は兄に劣らずすぐれた作品を残し、さらに末弟のエドアルト・シュトラウス（1835年～1916年）も兄たちと同様に活躍しました。19世紀のヨーロッパ、ロシア、アメリカなどでシュトラウス一家の作品が演奏され、一大ブームをもたらしました。フーグナーやブラームスに絶賛され、ショパンやR.シュトラウス、チャイコフスキー、マラーなどの作品に影響を与えました。

新年の世界的な風物詩にもなっているウィーン・フィルニューイヤーコンサートは1939年に始まった当初はジルバスター公演のみでしたが、1941年からは今日のように元日に開催され、世界中にテレビ中継されています。この権しこそ、19世紀シュトラウス一家の活躍した時代のフルオーケストラでの再現であり、シュトラウス・カペレの時代の再現なのです。

シュトラウス・カペレの活動はコンサートホールなどができる前の時代でもありましたので、自然と演奏場所が酒場、娯楽場、レストラン、公園などの野外、あらゆる場所で演奏してきた事情があります。そのため、どこへでも移動しやすい機動性のある20数名から30名程度のオーケストラスタイルで活動してきたのです。この伝統をシュトラウス・カペレは現在でも維持しています。このように、シュトラウス一家が作り上げてきた魅惑的なオーストリアの伝統的文化遺産を守りながらも、常に新しい息吹を吸収し、世界中の音楽ファンと共に歩み続けているのが、ウィーン・シュトラウス・カペレなのです。



## 梅津 碧（コロラトゥーラ・ソプラノ） Umetsu Midori (coloratura soprano)

山形県出身。青山学院大学卒業。東京音楽大学声楽演義コース首席卒業。卒業演奏会、脱売新人演奏会に出演。ウィーン、ブライナー音楽院審査員全員一致の首席修了。ウィーン国立音楽大学大学院オペラ科修了。第3回イブラ・グランド・ワード声楽部門第一位。これまでに、ウィーン・シェンブレン劇場、日生劇場等、国内外多くのオペラに出演。コンサートソリストとして国内外数々のオーケストラと共演。

最近ではオクタヴィアレコードよりCD「Märchen」をリリース。東京文化会館主催、音楽劇「シミダリ氏または美粉の殿」にイリヤ姫で主演。新国立劇場公演のオランピア、夜の女王のガヴァー、短編映画「Applause」の主演を務める等、活動の幅を広げている。地域創造おんかつアーティスト、山形大学医学部非常勤講師。



## 明珍 宏和（バリトン） Myochin Hirokazu (baritone)

東京都出身。東京音楽大学卒業。二期会オペラ研修所53期マスタークラスを奨学金を得て修了。2015年-2018年ベルリン、パリに遊学。第1回ジュリアード音楽院声楽オーディション奨励賞ほか賞歴多数。2017年にウォルト・ディズニー・コンサートホール(L.A.)にて、LAフィルのペート・ヴェン「第九」等のバリトンソリストを日本人として初めて務める。ニッセイオペラ2021「ラ・ボエーム」にマルチェロ役アンダースタディとして参加。2025年10月24日から北とびあ・つづじホールにてシェーベルト歌曲全曲演奏会を30年の歳月をかけてピアニスト・山田成彦と共に取り組む。2026年3月には主宰するオペラ団体「プリンスオペラ」の旗揚げ公演、オペラ「トスカ」を北とびあにて上演しスカルピア役を務める予定。ベシヤール会会員。



Strauss Capelle Wien & Alma Deutscher